

教育の方法・技術

第3講 システム的アプローチによる講座の設計

齋藤 陽子(岐阜女子大学)

第3講 システム的アプローチによる講座の設計

【目的】

「学ぶこと」を全体的なシステムとして捉え、「学び手」と「教え手」の相互作用を考える。

【学修到達目標】

- システム的アプローチ（システムズアプローチ）の意味を理解し、説明できる。
- システムズアプローチの理論を基に、研修講座の設計の基本的な考え方を整理し、述べることができる

【システム的アプローチとは】

- 「システム」
 - 「アプローチ」
-

【システムとは】

- 「交互に作用しあう要素の複合体である」

←ルートヴィヒ

(20世紀前半に一般システム論を提唱)

【アプローチとは】

- 「物事の本質に迫る，あるいは問題を解決する仕方，考え方，態度，方法論
-

【システム的アプローチの代表例】

- 「PDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクル」
 - 「インストラクショナルデザイン」
-

【システム的アプローチからとらえた 学ぶこと】

- 教え手と学び手の両者によって作られる全体的なシステム
- 学び手・教え手・教える方法などの構成要素が一体となることで、学ぶこと・教えることが成立
- 一つ一つの構成要素の中の一つが変わることによって、全体が変わる可能性がある

【研修の設計】

達成したい目的の到達度を確認しながら「効果的・効率的・魅力的」な研修を実現する方法を準備すること

- 研修は、受講生の学びを支援するためのもの
 - 研修の成果として、受講生は、何らかの知識やスキルを身に付け、確認できることが必要
 - 研修は目標を達成することが目的
-

【研修のスタート】

受講生の学びたい目標を明確にすること

- 目標とは、「何ができるようになるのか」や「できるようになったことを活用して、どのような問題解決をするのか」である
 - 評価方法の必要性
 - ⇒ 受講生の脳内の変化
 - = 目に見えない部分を可視化
-

【研修中・研修後】

仕事と両立した研修が求められる。

- 研修 = 受講生の時間を使う
⇒ 仕事と両立をした研修 ⇒ 効率的であること
 - 受講生が「もっとやってみたい！」や「学びを続けていきたい」と思えること
-

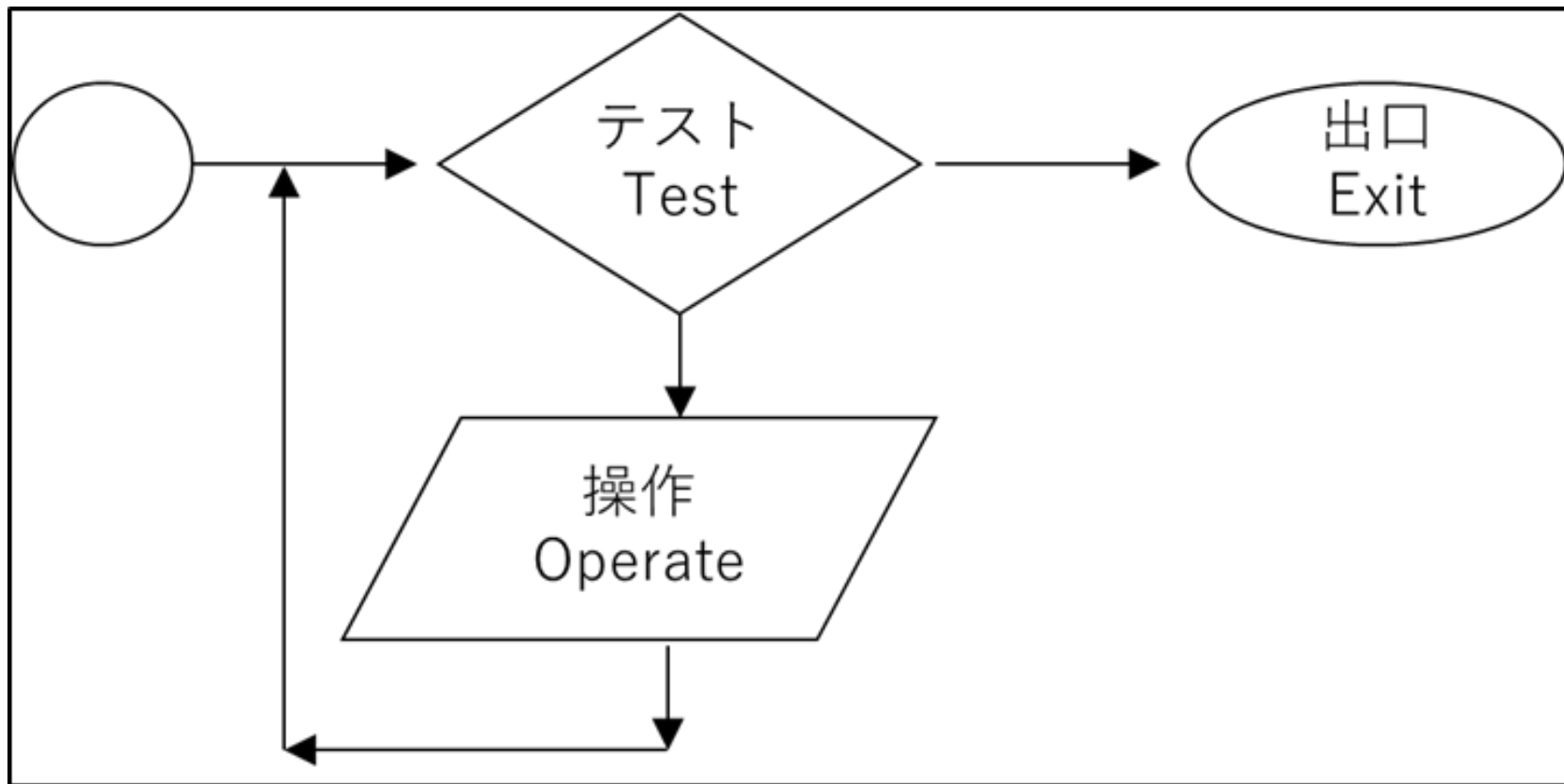
【TOTEモデル】 ジョージ・ミラー (1960)

ある特定のゴールをめざして進む時に、常にゴールに達したかどうかをチェックしながら作業を進めることを図式化したモデル。

- 何かを行う前に、その行為がすでに達成されているかを確認する (テスト (Test))
 - ⇒目標が達成されていない場合は、一定量の事柄を実施す
 - 目標が達成されている場合は、「抜け出す」

第3講 システム的アプローチによる講座の設計

【TOTEモデル】



【カークパトリックモデル】 カークパトリック 「評価の4段階モデル」を提唱

- ① 反応レベル
 - ② 学習レベル
 - ③ 行動レベル
 - ④ 結果レベル
-

課題

1. システムズアプローチとは、どのような考えかを整理して、述べなさい。
2. システムズアプローチの考えを基に、自身が行うと仮定する研修講座の設計の基本的な考え方を整理し、述べなさい

第3講 システム的アプローチによる講座の設計

【目的】

「学ぶこと」を全体的なシステムとして捉え、「学び手」と「教え手」の相互作用を考える。

【学修到達目標】

- システム的アプローチ（システムズアプローチ）の意味を理解し、説明できる。
- システムズアプローチの理論を基に、研修講座の設計の基本的な考え方を整理し、述べることができる

教育の方法・技術

第3講 システム的アプローチによる講座の設計

齋藤 陽子(岐阜女子大学)